

## 国際連携研究戦略本部が

### 「大学の国際化に関するシンポジウム」及び運営会議を開催



渡辺その子文部科学省国際交流推進官



パネルディスカッション風景



村岡洋一早稲田大学常任理事の特別講演



慈道裕治立命館大学国際機構長の特別講演

国際連携研究戦略本部は、1月23日（月）、長崎市内のホテルで250名を超える大学教職員、学生、一般市民らが参加し、「大学の国際化に関するシンポジウム」を開催しました。

国際連携研究戦略本部片峰 茂本部長による開会挨拶の後、まず渡辺その子文部科学省科学技術・学術政策局国際交流官付国際交流推進官による「科学技術政策の動向と国際協力の方向性」と題する施策説明がありました。

続いて第一部として国際化に関する先進的な取組を行っている早稲田大学と立命館大学の国際戦略について、村岡洋一早稲田大学研究推進担当常任理事、慈道裕治立命館大学国際機構長の特別講演がありました。

第二部では、國井 修国際連携研究戦略本部教授の司会で「国際貢献における大学の役割」をテーマにパネルディスカッションを実施しました。パネリストに上記渡辺その子氏、村岡洋一氏、慈道裕治氏に加えて、Walther H. Wernsdorfer ウィーン医科大学熱帯医学予防研究所教授、浦元義照国連児童基金（UNICEF）東京事務所日本・韓国兼任代表、池上清子国連人口基金（UNFPA）東京事務所長を迎え、長崎大学及び日本の大学の国際化に関する提言や期待が述べられました。会場の聴衆からの質疑応答を含め、予定の時間を超えて活発な議論が交わされました。

このシンポジウムは、国際連携研究戦略本部の活動状況について、外部有識者による助言及び評価をいただくために組織した運営会議にあわせて企画されたものです。翌24日に開催された運営会議では、シンポジウムの講演者及びパネリストの他に学外委員として、武田直子グローバルリンクマネジメント株式会社代表取締役、金井 要厚生労働省大臣官房国際課国際協力室長、寺崎 誠東京大学海洋研究所長、佐々木康人独立行政法人放射線医学総合研究所理事長が加わり、各委員から、本学の国際連携研究や国際貢献に対しても貴重な提言がなされました。

（国際連携研究戦略本部）